

グジャラート商工会議所の会員構成と宗教・カースト
——2014年会員名簿分析を中心として——

篠田 隆

**Religious and Caste Composition among
the Members of the Gujarat Chamber of
Commerce & Industry -An Analysis of the 2014
Members' Directory-**

Takashi SHINODA

『大東文化大学紀要』第54号

〈社会科学〉〈抜刷〉

2016年3月 発行

グジャラート商工会議所の会員構成と宗教・カースト ——2014年会員名簿分析を中心として——

篠田 隆

Religious and Caste Composition among the Members of the Gujarat Chamber of Commerce & Industry –An Analysis of the 2014 Members’ Directory–

Takashi SHINODA

はじめに

本稿の目的は、多様な宗教・カースト集団が混在するインドにおいて、諸種社会集団の商工業への参入の実態と商工業の再編の動向を捉えることにある。インドには商工業の展開、財閥、同郷集団、商工会議所、工業団地等についての多数の研究が存在しているが、中小規模の経営主体に関する研究は非常に少ない。商工業は社会集団の社会的経済的発展に不可欠な産業を成しており、この観点から、在地社会の経営主体の社会的属性に踏み込んだ経営者研究が必要とされている。

この目的に向けて、筆者は以前、グジャラート商工会議所の編纂した1991年の会員名簿の分析を行った¹⁾。今回は、グジャラート商工会議所の2014年度版（現時点での最新版）に基づき、会員分析を行う。今回の名簿には個別会員の(1)登録番号(2)会員タイプ分類(3)事業体名(4)住所(5)電話番号(固定電話・携帯電話)(6)メールアドレス(7)ホームページ(8)事業の種類(9)代表者名、が記載されている。代表者名は1名の場合も2名の場合もある。今回も登録番号が記載されているので時系列分析を行うほかに、前回の1991年版名簿分析では行わなかった代表者組み合わせ分析(代表者2名が記載された会員サンプルに依拠)を行う。また、1991年時点と2014年時点における会員構成の変化の実態を分析する。

今回の2014年度版の会員名簿は、グジャラート商工会議所事務局のジョーシー(Dharmendra Joshi)氏から提供していただいた。姓分析については、前回の名簿分析の際と同様に、シェート(Pravin Sheth)氏とラーワル(R.L.Raval)氏からのご教示を参考にしているが、いかなる誤りも筆者のものである。

1. 近年の動向

(1) グジャラート商工会議所の機能と役割

グジャラート商工会議所はグジャラート州を代表する州レベルの商工会議所で、傘下にグジャラート州各地の主だった地域商工会議所を会員として抱えている。同時に、グジャラート商工会議所は全国レベルの商工会議所²⁾の構成会員として連携を保っている。

グジャラート商工会議所の基本的機能と「通常」の業務、たとえば、会員に対する関連情報の提供、会員の結束の促進、貿易手続きで重要な原産地証明書(Certificate of Origin)の発行、中央・州政府の諸種の調査委員会への証言等は、前回分析を行った1990年代初頭と変わらない。

ただし、1950年代の州の再編問題や1990年代のナルマダー問題のようなグジャラート商工会議所の総力を結集して取り組んできた時代ごとの単一 이슈はオクトロイ(物品搬入税)の撤廃以降なくなり、現在は工業政策と環境政策が最大の関心事になっている。

さらに、2003年(実質的には2000年)以降は「躍動するグジャラート」(Vibrant Gujarat)の推進が商工会議所の重要な課題に組み込まれた。Vibrant Gujaratはグジャラート州を活性化するために、当時の州首相Narendra Modi(現在はインドの首相)が提唱推進したプロジェクトである。このプロジェクトはインフラ整備、環境改善など諸種の目的をもつが、それらのなかで中心的な事業として位置付けられているのが、グジャラート州のビジネスの発展である。Make in Indiaの標語のもと、世界に開かれたビジネスモデルが追及され、2年おきに「躍動するグジャラート・グローバル投資家サミット」(Vibrant Gujarat Global Investors' Summit)が開催されている。グジャラート商工会議所は、グジャラート州の代表的な商工会議所として、州政府と連携してロジスティクス支援を行っている。

(2) 全国組織商工会議所との関係

1990年代以降、グジャラート州における商工会議所の状況が大きく変化している。グジャラート州がインド有数の工業州に成長するなかで、全国組織の商工会議所が続々とグジャラート州に支部(Gujarat Chapter)を開設した。

1992年にインド工業連合(Confederation of Indian Industry: CII)のグジャラート支部が開設された。同オフィスからの聞き取りによると、現在アーメダバード事務所には職員45名が配置されている。このほか、Baroda, Rajkot, Bhavnagar, Suratに合わせて職員10名が滞在している。CIIは全国組織の商工会議所で、国内に66支部、海外8カ国に支部を持っている(1995年から2008年まで大阪にワンマン支部が設置されていたが、現在は閉鎖)。現在の主要政策課題は技術教育、ナノテクノロジーの推進、知的財産権の保護である。昨年度のグジャラート支部での会員数は450事業体であった。内50事業体は経営不振や吸収合併で退会している。グジャラート州の地元の商工会議所は地元の経営者の日々の業務のため重要であり、直接競合することはない³⁾。

幹部によると、全国レベルの商工会議所は得意分野をもち、仕事の質で勝負をしている。CIIの会員は製造業者が中心でサービス（ITなど）関係者は少ない。これがバンガロールやハイデラバードの支部と異なる点である。この点について、一幹部は、ITは需給の波が大きいのに対して製造業は変動が小さく良いと評価したうえで、ITはサービス業としては展開していないがグジャラートはe-governanceが展開している州であり、IT利用の需要は大きいと回答した。今後のシナリオでは、(1) 成長の持続可能性、(2) 製造業の強化、(3) 技術開発、の三つが重要な課題となっていると指摘している⁴⁾。

その後、2003年にインド商工会議所連盟（Federation of Indian Chamber of Commerce and Industry: FICCI）のグジャラート支部が創設された。FICCIが州支部を設け始めたのが1998年からで、グジャラート支部の創設は諸州のなかで早いほうであった。FICCIは全国の商工会議所の統合組織で傘下に全商工会議所を会員にもつ。州単位の個別登録はない。現在、インド国内の14州、海外8カ国（日本を含む）に支部をもつ。海外の250の商工会議所と、間接的に250万人と連携している。農業から航空産業まで72セクターすべてで活動している。州事務所では州にかかわる事項を扱い、全国組織、中央政府、州政府と連携できる利点がある。

グジャラート支部は「躍動するグジャラート」に呼応して創設された。「躍動するグジャラート」のなかで、ビジネス立ち上げ促進、撤退判断含めての訓練が重視されている。また、産学協同の立ち上げと推進（インドは遅れている）も重要な課題である。グジャラートでは製造業は強いが、サービス（ITなど）が弱く、その強化が課題となっている。

会員の資格は年商1億ルピー（中規模）以上と規定されており、現在の州支部の会員数は約300企業（内、20は商工会議所）である。会員数は増加しているとの回答を得た⁵⁾。州支部設立の目的にグジャラート外からの資本の便益確保や海外からの投資への対応が含まれていた。会員は必要に応じて他の商工会議所にも入会しており、ちなみにFICCIのグジャラート支部会員の75%ほどは、グジャラート商工会議所の会員でもある。大企業ほど複数会員になっているとのことであった。グジャラート商工会議所の会員は地元中心で、certificate of origin 発給の利点がある。このような地域商工会議所の業務にはFICCIは介入していない。ただし、CIIなど全国組織の商工会議所とは競合している。昨今の政策については、知的財産権と経営能力開発（訓練と研究）が重要課題となっている⁶⁾。

これらのほか、インド商工会議所協会（Associated Chambers of Commerce and Industry of India: ASSOCHAM）のグジャラート支部も近年創設され、全国組織の3大商工会議所がすべてグジャラート州に進出した。現時点で、ASSOCHAM同支部の規模と影響力は比較的小さいが、これ以降、全国規模の3大商工会議所の間でのサービスの質量と顧客獲得の競争が格段に激化することは間違いない。

さらに、インド社会の底辺層からも商工会議所設立の動きがみられる。その代表例が現在、インドの7州に設立されている「ダリト・インド商工会議所」（Dalit Indian Chamber of Commerce and Industry: 略称 DICCI）である。本部は、マハーラーシュトラ州ブネー市にある。これは経済

表1 1990年代以降の歴代会長

会長名	期間
SHRI GIRISH P. DANI	[1994-95, 1995-96]
SHRI SAMVEG A. LALBHAI	[1997-98]
SHRI UTKARSH B. SHAH	[1998-99]
SHRI MUKESH M. PATEL	[1999-2000]
SHRI KALYAN J. SHAH	[2001-2002]
SHRI MAHENDRA A. SHAH	[2002-2003]
SHRI SHREYAS V. PANDYA	[2003-2004]
SHRI RAJENDRA V. SHAH	[2005-2006]
SHRI PANKAJ R. PATEL	[2006-2007]
SHRI RUPESH C. SHAH	[2008-09-2009-10]
SHRI CHINTAN N. PARIKH	[2010-2011]
SHRI CHINUBHAI R. SHAH	[2004-2005]
MRS. PARU M. JAYKRISHNA	[2007-2008]
SHRI MAHENDRA N. PATEL	[2011-2012]
SHRI PRAKASH K. BHAGWATI	[2012-2013]
SHRI SHANKERBHAI R. PATEL	[2013-2014]
SHRI RAKESH R. SHAH	[2014-2015]

(出所) GUJARAT CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY(2015), *Make in India, Changing Scenario of India*, Special Bulletin, February 2015, pp.6-8 より筆者作成。

分野でとくに後れをとっていたダリトの商工業活動を支援するために、カンブレ (Milind Kamble) が2005年に設立した商工会議所である。グジャラート州では2014年に設立されたばかりである。これはダリトによるダリトのための商工会議所であり、情報、技術、融資へのアクセスやダリト企業家のネットワーク化を目的として活動をしている⁷⁾。これまでのところ、全国組織の3大商工会議所やグジャラート商工会議所との直接的な連携や競合はないけれども、底辺層の企業家発展の観点から、その動向が注目される。

(3) 代表者の変遷

1991年名簿を分析した際に、グジャラート商工会議所の創設から1991年までの三役(会長、副会長、書記)の変遷を概観した。何れの職位も「バニヤー」が圧倒的多数を占めており、「パーティーダール」を含むその他の宗教・カースト集団はほんの一握りに過ぎなかった。しかし、1990年代以降は、表1にみるように、Patel姓の「パーティーダール」出自の会長が増加し、同表の17名中、4名を占めるまでになった。このように、代表者の構成にも、グジャラート商工会議所における宗教・カースト別会員間の力関係の変遷があらわれている。

2. 会員数の分布

(1) 経営組織形態別

商工会議所の会員は、11種類に分類されている。このうち、本稿での分析に関わるのは、大企業 (corporate) 会員、地域商工会議所 (regional chamber) 会員、経営協会 (マハジャン:

表2 形態別会員数の分布 (2014年)

(会員数、%)

形態	2014		1991	
	会員数	(%)	会員数	(%)
協会・商工会	186	(6.0)	303	(6.5)
大企業	53	(1.7)	0	(0.0)
商会	1,287	(41.5)	2,880	(61.9)
商会女性ウイング	63	(2.0)	0	(0.0)
個人	238	(7.7)	808	(17.4)
個人女性ウイング	20	(0.6)	0	(0.0)
永久会員女性ウイング	5	(0.2)	0	(0.0)
永久会員	153	(4.9)	0	(0.0)
有限パートナーシップ	4	(0.1)	0	(0.0)
パトロン会員女性ウイング	1	(0.0)	0	(0.0)
パトロン会員	153	(4.9)	68	(1.5)
株式会社	163	(5.3)	194	(4.2)
有限会社	758	(24.5)	397	(8.5)
有限会社女性ウイング	2	(0.1)	0	(0.0)
有限トラスト	4	(0.1)	0	(0.0)
地域商工会	9	(0.3)	0	(0.0)
合計	3,099	(100.0)	4,650	(100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 1991 年度版及び 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

business association: mahajan) 会員、パトロン (patron) 会員、永久 (lifetime) 会員、女性経営者 (business women) 会員、一般 (ordinary) 会員の 6 種類である。大企業とは 1956 年の会社法 (the Company Act, 1956) およびその後の関連改正法に規定された企業のことであり、2 名の代表者を送ることができるが、商工会議所の選挙権と被選挙権は 1 名に限定される。地域商工会会員は、グジャラート商工会議所が地域の有力な商工会と認め、そのうえで地域商工会の分類で登録した会員である。マハジャン会員もグジャラート商工会議所に経営協会と認められたうえで登録できる。パトロン会員は多額の入会金 (現在は税込みで、56,253 ルピー) を一括納入し永久会員の資格を得た会員のことであり。永久会員は規定額 (現在、税込みで 34,193 ルピー) を一括納入した会員で、パトロン会員と同様に、会議所刊行物の配布やイベントの情報提供を受けるが、この枠は個人会員に限定される。女性経営者会員は 1985 年に設けられた新しい会員枠で、女性経営者の育成を目的にしている。一般会員は経営に関わる人であれば誰でもなれるが、入会金のほかに、毎年年会費を納めなければならない。以上の会員は何れも商工会議所の選挙権と被選挙権を有する。

グジャラート商工会議所には、さまざまな経営組織が会員として参加している。個人 (individual) 会員、商会 (firm)、有限会社 (private limited company)、有限トラスト (private trust)、株式会社 (public limited company) の諸組織である。ちなみに、1991 年名簿には、有限トラストは含まれていなかったが、今回の名簿にはない経営代理会社 (managing agency company) が含まれていた。

さらに、会員の分類と配置にも変更が生じている。1991 年名簿ではパトロン会員と一般会員の大分類のもとに、各種経営形態の会員が位置付けられていたが、今回の名簿では、パトロン会員や永久会員に分類された会員が、どのような経営形態をとっているのかが表示されていない。このた

表3 地域別会員数の分布(2014年)

(会員数、%)

地域	2014		1991	
	会員数	(%)	会員数	(%)
中央グジャラート	2,746	(88.6)	3,481	(74.9)
北グジャラート	114	(3.7)	461	(9.9)
南グジャラート	42	(1.4)	116	(2.5)
サウラーシュトラ	147	(4.7)	267	(5.7)
カッチ	33	(1.1)	29	(0.6)
州外	17	(0.5)	296	(6.4)
合計	3,099	(100.0)	4,650	(100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 1991年度版及び2014年度版会員名簿より筆者作成。

め、両者を並列的に表記せざるを得なかった。

表2に、「形態別会員数の分布(2014年)」を掲げる。1991年名簿の形態別会員数も比較のために載せてある。会員数はこの間に全体で1,500人減少した。とくに減少幅が大きかったのは商会で1,600名ほどの大減少であった。それに次ぎ、減少数が大きかったのは個人会員で550名ほど減少した。減少率でみると、個人会員がもっとも激しく減少した。これに対して、有限会社の会員数はほぼ倍増した。さらに、大企業が新たに加わった。株式会社の会員数は微減であったが、会員総数に占める比率は増加した。また、有力な企業や商工会議所の運営で実績のある企業により構成されるパトロン会員は倍増した。このように、会員総数が大きく減少する中で、組織形態別の会員構成が再編された。個人会員や商会会員のように小規模で商業や専門職、サービス業を主体とする会員が大幅に減少し、有限会社、株式会社、大企業の組織部門の会員数が全体的に増加した。また、パトロン会員数の倍増も比較的大規模な経営組織がグジャラート商工会議所の活用に積極的に関与し始めた証と捉えることができる。この地殻変動のなかで、個人や商会など必ずしも経営を専門としない業態や零細経営者の商工会議所からの退会が進んだ。

(2) 地域別

表3に基づき、「地域・県別会員数の分布(2014年)」を検討しよう。ここにも比較のために、1991年の会員数も示しておく。同表では、地域をグジャラート州内の5地域と州外に分けて表示してある。

カッチ(ただし、会員数僅少)を除きいずれの地域もこの間に会員数が減少した。しかし減少率(率)は地域により大きく異なっていた。減少率がもっとも小さかったのは中央グジャラートであった。その中でも、アーメダバード県の会員数の減少はわずかであったが、隣県のガンディーナガル県やケーダー県の会員数は大きく減少した。県別ではカッチ県とバーブナガル県の2県のみで会員数がわずかに増加した。地域別会員数の動向には、グジャラート商工会議所の再編の一端があらわれている。ひとつは、グジャラート州を代表する商工会議所としての役割と評価に変化が生じていることである。これまでグジャラート商工会議所は、果たしてきた役割に対する評価から、州内諸地域の多数の個人や商会を会員として擁してきたが、これらの層の商工会離れが進んだ。さ

らに、商工会議所に求められる日常的な業務については、地域の商工会議所で充足するようになったこと、この意味での地域の商工会への回帰が起こったことが指摘できる。さらに、グジャラート商工会議所は全国レベルの商工会議所である CII、FICCI、ASSOCHAM とともに連携あるいは競合する立場に置かれている。全国組織の商工会議所のグジャラート支部の会員数は何れも 500 人に満たない状況であるが、州内の経営者にとって新たな選択肢となっている。グジャラート商工会議所の中大規模企業は同商工会に会員として留まり、かつ全国商工会にも加入している状況である。州外の会員数の激減も重要な変化のひとつである。1991 年名簿では、ムンバイ市だけで 179 名の会員がいた。ムンバイには多数のグジャラート商人が在住し、グジャラートとの結びつきはきわめて強かったが、1980 年代以降は会員の離脱が進んでいた。2014 年には、州外の会員は人数でも影響力でもまったく取るに足らないものとなった。ムンバイ市の会員は現地における地域商工会議所や全国組織の商工会議所の会員に移行した。

(3) 業種別

グジャラート商工会議所の会員名簿では当初より会員の職業についての情報も編纂されてきた。しかし、職業の情報は会員の自己申告に任せられてきたため、体系的な職業記載は行われず、記載の精度も会員によりまちまちであった。この自己申告に基づき、歴代の会員名簿の職業情報が編纂された。当初、1951 年から 1970 年までは 37 項目に分類されていたが、それ以降 3 項目が追加され、1991 年名簿では 40 項目になっていた。これらの項目のなかには、「衣料製造業」や「衣料販売業」のように、製造業と商業に区別された記載もみられたが、その他の多くの項目は、「機械・部品」あるいは「ゴム製品」のように、製品名のみが表示されているため、商業か製造業かの区別がつかない項目であった。また、個人会員の多くが従事していたとおもわれるサービス業や専門職は項目に含められていなかった。このため、会員数の約 30% が「分類不能な業種」に括られることになった。

表 4 に基づき、「業種別会員数の分布 (2014 年)」を検討しよう。同表には、比較のために、1991 年名簿の職業情報を 2014 年名簿での職業分類に組み替えた会員数で表示してある。2014 年名簿では、職業を 17 項目に分類している。名簿の目次には 14 種類の職業項目がアルファベット順に並べられ、項目ごとに企業名一覧 (アルファベット順) が表示されている。そのため、職業項目のひとつである「その他」(Others) は職業項目リストの最後ではなく、中ほどに置かれている。また、個別会員の情報欄に記載されている職業名をすべて点検したところ、目次に記載されていない職業項目が新たに 3 種類 (「工学技術・自動車 (Engineering and Automobiles)」、「梱包・塗装 (Packing and Painting)」、「ゴム・プラスチック (Plastic and Rubber)」) あったので、これらを含めて 17 種類に分類表記した。1991 年名簿における職業項目数を大きく下回るほか、製造業と商業の区別がさらに曖昧になっている。また、1991 年名簿には、「窯業・ガラス」と「情報技術・装置」に関連する職業項目が設定されていなかったため、1991 年の当該欄は空欄にしてある。2014 年名簿でも会員の 22% が「その他」に、16% が「専門職・サービス」に分類されており、合わせ

表4 業種別会員数の分布（2014年）

（会員数、％）

業種	2014		1991	
	会員数	(%)	会員数	(%)
農業製品・食品加工	193	(6.2)	302	(6.5)
協会	203	(6.6)	308	(6.6)
窯業・ガラス	22	(0.7)		
化学・染料及び中間物	357	(11.5)	333	(7.2)
建設・不動産	140	(4.5)	115	(2.5)
電子機器・電気製品	76	(2.5)	138	(3.0)
エネルギー・電力	32	(1.0)	49	(1.1)
宝石・貴金属	38	(1.2)	88	(1.9)
情報技術・装置	24	(0.8)		
金属	123	(4.0)	349	(7.5)
その他	673	(21.7)	429	(9.2)
製薬	115	(3.7)	76	(1.6)
専門職・サービス	480	(15.5)	221	(4.8)
繊維	195	(6.3)	570	(12.3)
工学技術・自動車	266	(8.6)	184	(4.0)
梱包・塗装	83	(2.7)	24	(0.5)
ゴム・プラスチック	79	(2.5)	78	(1.7)
分類不能な業種			1,386	(29.8)
合計	3,099	(100.0)	4,650	(100.0)

（出所）グジャラート商工会議所 1991 年度版及び 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

て 37%もの多数の会員の職業は正確には把握できない。ただし、1991 年名簿でも「分類不能な業種」が会員数の 30%を占めていたので、比較可能な職業項目に限定して、この間の動向を検討してみよう。

明確に読み取れることは、すでに 1980 年代以降減少していた「繊維」の比重がさらに低下し、会員数の 6%ほどになったことである。「繊維」はかつてはアーメダバード市を代表する産業であったが、現在では産出、雇用の両面で新たな産業に追い抜かれる状況になっており、それが会員数の減少に反映されている。また、地方で展開していた「宝石貴金属」や「金属」も地方会員の退会の影響で会員数およびその比率を低下させた。それに対して、1980 年代以降伸びていた「化学・染料及び中間物」、「工学技術・自動車」はさらに展開し、「製薬」は新たな戦略的業種として伸びをみせた。「建設・不動産」はグジャラートのインフラ整備、住宅建設のブームを背景に会員数およびその比率を伸ばした。このように、1991 年名簿における「分類不能な業種」や 2014 年名簿の「その他」「専門職・サービス」の項目の比重が大きく、かつ両名簿における職業項目が異なっているために、対比の精度に問題はあるものの、地方会員の脱会が進み、会員構成がアーメダバード県中心に移行するなかで、新旧業種の入替わりが職業別会員構成に反映されたことが確認できる。

（4）登録時期別

次に、登録時期別に分類した会員数の変動を検討する。1991 年名簿にみられた登録番号の最大値は 2 万 4 千であったので、それ以下の登録番号の会員は第 1 期（1949 年～1991 年）に、それ以上の会員番号は第 2 期（1992 年～2014 年）に登録した会員に分類した。第 1 期の会員構成は現存

表5 登録時期別業種別タイプ別会員数の分布 (会員数、%)

登録時期		会員タイプ							合計	(%)	
		個人	商会	有限	株式	大企業	協会・ 商工会	パトロン 会員			永久 会員
第1期 (1949-1991)	農業製品・食品加工	3	28	5	5	6	0	1	0	48	(6.0)
	協会・商工会	0	0	3	0	0	93	0	0	96	(12.1)
	窯業・ガラス	0	3	1	0	0	0	0	0	4	(0.5)
	化学・染料及び中間物	0	31	22	8	6	0	4	0	71	(8.9)
	建設・不動産	8	18	3	2	3	0	0	0	34	(4.3)
	電子機器・電気製品	0	12	5	2	0	0	2	1	22	(2.8)
	エネルギー・電力	0	5	0	1	0	0	0	0	6	(0.8)
	宝石・貴金属	2	3	1	0	0	0	1	0	7	(0.9)
	情報技術・装置	0	0	1	1	0	0	0	0	2	(0.3)
	金属	2	15	7	6	0	0	1	0	31	(3.9)
	その他	10	85	26	15	2	0	5	0	143	(18.0)
	製薬	0	9	7	3	1	0	0	0	20	(2.5)
	専門職・サービス	31	54	18	2	3	0	10	1	119	(15.0)
	繊維	1	35	11	5	1	0	13	1	67	(8.4)
	工学技術・自動車	3	44	27	6	1	0	0	0	81	(10.2)
	梱包・塗装	1	14	8	2	0	0	0	0	25	(3.1)
ゴム・プラスチック	0	7	9	1	0	0	2	0	19	(2.4)	
合計		61	363	154	59	23	93	39	3	795	(100.0)
(%) (横列)		(7.7)	(45.7)	(19.4)	(7.4)	(2.9)	(11.7)	(4.9)	(0.4)	(100.0)	
第2期 (1992-2014)	農業製品・食品加工	11	61	47	4	1	0	9	12	145	(6.3)
	協会・商工会	0	0	4	0	0	101	2	0	107	(4.6)
	窯業・ガラス	0	4	8	2	0	0	3	1	18	(0.8)
	化学・染料及び中間物	2	140	75	27	3	1	24	14	286	(12.4)
	建設・不動産	14	46	21	0	3	0	6	16	106	(4.6)
	電子機器・電気製品	6	20	20	1	1	0	3	3	54	(2.3)
	エネルギー・電力	1	10	5	2	5	0	2	1	26	(1.1)
	宝石・貴金属	6	15	3	1	0	0	4	2	31	(1.3)
	情報技術・装置	1	6	10	2	1	0	2	0	22	(1.0)
	金属	4	42	29	9	0	0	5	3	92	(4.0)
	その他	43	263	122	30	5	0	19	48	530	(23.0)
	製薬	4	29	39	6	6	0	5	6	95	(4.1)
	専門職・サービス	90	140	69	10	0	0	17	35	361	(15.7)
	繊維	7	54	53	1	3	0	4	6	128	(5.6)
	工学技術・自動車	4	96	65	6	1	0	7	6	185	(8.0)
	梱包・塗装	4	31	19	0	1	0	0	3	58	(2.5)
ゴム・プラスチック	0	30	21	3	0	0	3	3	60	(2.6)	
合計		197	987	610	104	30	102	115	159	2304	(100.0)
(%) (横列)		(8.6)	(42.8)	(26.5)	(4.5)	(1.3)	(4.4)	(5.0)	(6.9)	(100.0)	

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

会員の登録時期にしたがい再構成されたものであり、表4で検討した1991年時点の実際の会員構成と異なっている点に留意する必要がある。ちなみに、現会員のなかで第1期に登録した会員は795名、残余の2,304名は第2期の登録である。1991年の会員登録数は4,650名であったので、そのうちの17%の会員が2014年までメンバーシップを維持したことになる。残りの83%の会員は、さまざまな原因や理由により、会員資格を失うか自ら会員であることを辞めた。

1) 業種別タイプ別

表5に「登録時期別業種別タイプ別会員数の分布」を掲げる。まず、会員タイプ別の会員構成を登録時期別に比較してみよう。第1期と第2期に登録した会員数は大きく異なっているので、会

員タイプ別比率の違いに注目して登録時期別に比較すると、いくつかの相違点を指摘できる。

第1は、協会・商工会の会員数に占める比率は、第1期は12%なのに、第2期は4%ほどと大きな開きがあることである。この背景には、グジャラート商工会議所がグジャラート州の地域商工会議所や専門業種の協会を統括する商工会議所として認識されてきたために、当初より多数の協会・商工会の登録があったこと、また一旦加入した協会・商工会の退会率は他の会員タイプに比べて非常に小さいので、現会員のなかで第1期に登録した会員に占める比率が大きくあらわれているのである。

第2は、株式会社や大企業会員の比率も第1期のほうが大きくあらわれていることである。これも協会・商工会に類似した側面があり、歴史のある株式会社や大企業は当初から加入し、かつ退会率も僅少であったと想定できる。

第3は、有限会社については、第2期における会員比率が第1期の同比率をかなり上回っていることである。また、現会員のなかでの第2期の登録数が第1期の登録数を4倍ほど上回っており、第2期にとりわけ会員数の増加した会員タイプになっている。

第4に、永久会員については、第1期にはほぼ存在していなかったが、第2期に入り大きく会員数とその比率を伸ばしている。永久会員の制度が本格的に活用されたのは第2期に入ってからであった。

次に、職業別会員の比率を登録時期別に比較すると、第1に、「協会・商工会」が第1期に12%もの高い比率であったことを指摘できる。その理由はすでに検討したように、退会率の低さが大きな要因になっている。第1期には「その他」と「専門職・サービス」で合計33%もの比率を占めているため、「協会・商工会」のほかに、第1期における職業別会員の比率が第2期の同比率を上回っているのは、「繊維」、「工学技術・自動車」、「梱包・塗装」などわずかな職業のみであった。反対に、第2期における職業別会員の比率が第1期の同比率を大きく上回ったのは、「化学・染料及び中間物」や「情報技術・装置」そして「製薬」などの新たに興隆した業種であった。

また、業種と会員タイプとの関わりを、業種別会員数に占める「個人」と「商会」を合わせた比率が、大きい業種と小さい業種に区分することができる。この比率が大きいのは、会員数に占める専門職・サービス、零細企業の比率が大きい業種であり、逆に小さいのは有限会社、株式会社、大企業などの組織部門の会員の比重の大きい業種である。前者に分類できるのは、「宝石・貴金属」や「専門職・サービス」、後者に分類できるのは「化学・染料及び中間物」「情報技術・装置」「製薬」などである。前者には商業や資本規模の小さい商会・企業が多く含まれるのに対して、後者には資本規模の大きい製造業が多く含まれている。この区分に基づく業界と会員タイプとの関わりは、第1期と第2期に共通する傾向として確認できる。

2) タイプ別女性経営者

女性経営者の育成は、中央政府や州政府の経営者育成計画のなかでも、重要な柱の一つをなしている。グジャラート商工会議所でも、女性経営者の育成と活躍を促進するために、1985年に「女性経営者部門（Business Women Wing:BWW）」を設置した。申請者がこの枠で会員申請し、かつ

表6 登録時期別会員タイプ別女性経営者会員数の分布 (会員数、%)

女性/その他	会員タイプ	第1期	第2期 (1992-2014)			合計	(%)
		(1949-1991)	phase1	phase2	phase3		
女性経営者部門	個人		1	1	18	20	(22.0)
	商会		1	35	27	63	(69.2)
	有限		0	0	2	2	(2.2)
	パトロン会員		1	0	0	1	(1.1)
	永久会員		0	3	2	5	(5.5)
	合計		3	39	49	91	(100.0)
その他	個人	61	49	65	63	238	(7.9)
	商会	363	244	339	341	1,287	(42.8)
	有限	154	247	174	187	762	(25.3)
	株式	59	61	20	23	163	(5.4)
	大企業	23	22	4	4	53	(1.8)
	協会・商工会	93	42	22	38	195	(6.5)
	パトロン会員	39	37	42	35	153	(5.1)
	永久会員	3	63	63	28	157	(5.2)
	合計	795	765	729	719	3,008	(100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

商工会議所が適当であると認めた場合に、「女性経営者部門」に登録されることになった。

表6に、「登録時期別会員タイプ別女性経営者会員数の分布」を掲げる。前表とは異なり、1992年～2014年の登録時期を、さらに3つのフェイズ（各フェイズの登録者数は768名と同数）に区分した。1992年から2014年までの23年間における登録会員数の趨勢を確認するためである。フェイズは登録者数を基準に設定したので、各フェイズの年数は一定ではないが、趨勢を示す区分として有効である。同表には、登録時期別の会員数の分布を「女性経営者部門」会員とそれ以外の会員の2グループに分けて表示してある。前者の会員数は非常に少ないので、後者は会員数のほぼ全体の動向を示している。

現在の女性経営者のなかで、第1期に登録した人はいない。第1期に登録がなかったのか、あるいは登録者はいたが、その後会員を辞めたのかは定かではないが、いたとしてもきわめて少数であったとおもわれる。このことは、第2期におけるフェーズ間の登録会員数の趨勢からも明らかである。第1フェーズの登録会員はわずか3名に過ぎないが、第3フェーズには49名に増加した。2014年の女性経営者会員数は91名であったが、2015年の女性経営者会員数は162人となり、急速に増加中である。会員タイプ別の分布では、「商会」が70%ほどを占め、それに「個人」が22%で続いている。このように、女性経営者の会員タイプ別の分布はその他の会員よりも、「商会」と「個人」の比率が大きく、逆に「有限」や「株式会社」などの組織部門の比率がきわめて小さい点に特徴がある。組織部門で女性が代表を務める企業が非常に少数であること、いたとしても女性経営者として登録していないことが、その理由として想定できる。また、永久会員は6%ほどいるが、商工会議所の運営に参画した人たちがなることの多いパトロン会員は1名(1%)しかいない点にも女性経営者の現状の一端があらわれている。

その他（「非女性経営者」）の第2期におけるフェイズ間の動向もみておこう。2点、指摘でき

る。第1は、組織部門の登録会員数が第1フェイズから第2・第3フェイズ(両フェイズにおける会員数はほぼ同数なので、第2・第3と表現)にかけて減少傾向を示している点である。とりわけ、減少しているのは、「株式会社」「大企業」の大規模な経営体の会員数である。「有限会社」の会員数も減少しているが、減少率は比較的緩やかである。第1フェイズは、経済自由化政策が開始された1990年代初頭からの時期に当たり、この時期にグジャラート商工会議所にまだ加盟していなかったか、グジャラート州に新たに設立された、「株式会社」「大企業」がこぞってグジャラート商工会議所に会員登録をしたと推測できる。第2点は、「個人」「商会」の非組織部門の会員数と会員数比率が第1フェイズから第2・第3フェイズにかけて逡増していることである。このように、組織部門と非組織部門で異なった趨勢を示している。

3) 業種別女性経営者

次に、表7に基づき、「登録時期別業種別女性経営者会員数の分布」を検討しよう。この表にも、比較のために、「非女性経営者」会員のデータも掲げる。女性経営者会員の業種別分布の第1の特徴は、「その他」の比率が47%と非常に高いことにある。同じく、内容が把握しにくい「専門職・サービス」と合わせると64%を占める。これらの会員の多くは「個人」や「商会」などの非組織部門に属すると推測できる。第2の特徴として、「宝石・貴金属」の比率が、「非女性経営者」会員に比べて非常に高いことが指摘できる。この業種も、「個人」や「商会」が主体となっている。その他の相違点として、「情報技術・装置」の比率が「非女性経営者」会員に比べて比較的高いことがある。女性経営者が進出しやすい業種をなしている可能性もあるので、今後検討したい。この関わりで、「農業製品・食品加工」が第3フェイズに会員数を大きく伸ばしている点も気にかかる。

会員全員の第1期と第2期の登録時期の比較はすでに行ったので、ここでは「非女性経営者」会員の第2期の3フェイズ間の動向に絞って検討を行う。ただし、第2フェイズには「その他」と「専門職・サービス」に分類される会員数が多く、そのためにそれ以外の業種の登録会員数が少なくあらわれる傾向にあるので、第1フェイズと第3フェイズの登録会員数の比較を中心とする。第1フェイズから第3フェイズにかけて登録会員数が大きく増加したのは、「建設・不動産」「化学・染料及び中間物」「電子機器・電気製品」「情報技術・装置」などである。このうち、「建設・不動産」は比較的近年の建設・不動産のブームが登録会員数を押し上げたことは間違いない。「情報技術・装置」も第2期のなかでも近年登録会員数が増加した業種である。ただし、IT産業が展開しているカルナータカ州やマハーラーシュトラ州と比較すると、グジャラート州では「情報技術・装置」の企業数はきわめて少ない。他方、登録会員数が減少している業種は、「エネルギー・電力」「工学技術・自動車」「梱包・塗装」などである。このうち、「エネルギー・電力」は第2期に入ってから組織部門の会員数が増加した業種である。「工学技術・自動車」「梱包・塗装」は第1期から第2期にかけて登録会員数が減少しており、その趨勢はフェイズ間でもあらわれている。

表7 登録時期別業種別女性経営者会員数の分布

(会員数、%)

女性/非女性	業種	第1期 (1949-1991)	第2期 (1992-2014)			合計	(%)	
			phase1	phase2	phase3			
女性経営者部門	農業製品・食品加工	0	0	2	7	9	(9.9)	
	化学・染料及び中間物	0	0	1	2	3	(3.3)	
	建設・不動産	0	0	0	1	1	(1.1)	
	電子機器・電気製品	0	0	1	0	1	(1.1)	
	エネルギー・電力	0	0	0	1	1	(1.1)	
	宝石・貴金属	0	0	5	3	8	(8.8)	
	情報技術・装置	0	0	1	2	3	(3.3)	
	金属	0	0	0	1	1	(1.1)	
	その他	0	2	20	21	43	(47.3)	
	製薬	0	0	1	1	2	(2.2)	
	専門職・サービス	0	0	7	8	15	(16.5)	
	繊維	0	1	0	2	3	(3.3)	
	工学技術・自動車	0	0	1	0	1	(1.1)	
	合計		0	3	39	49	91	(100.0)
非女性経営者部門	農業製品・食品加工	48	42	50	44	184	(6.1)	
	協会	96	44	22	41	203	(6.7)	
	窯業・ガラス	4	8	5	5	22	(0.7)	
	化学・染料及び中間物	71	90	89	104	354	(11.8)	
	建設・不動産	34	27	20	58	139	(4.6)	
	電子機器・電気製品	22	18	7	28	75	(2.5)	
	エネルギー・電力	6	11	8	6	31	(1.0)	
	宝石・貴金属	7	9	3	11	30	(1.0)	
	情報技術・装置	2	2	8	9	21	(0.7)	
	金属	31	35	32	24	122	(4.1)	
	その他	143	178	196	113	630	(20.9)	
	製薬	20	37	18	38	113	(3.8)	
	専門職・サービス	119	107	128	111	465	(15.5)	
	繊維	67	43	38	44	192	(6.4)	
	工学技術・自動車	81	74	64	46	265	(8.8)	
	梱包・塗装	25	21	21	16	83	(2.8)	
	ゴム・プラスチック	19	19	20	21	79	(2.6)	
	合計		795	765	729	719	3,008	(100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

3. 会員とカースト

(1) 姓とカースト

ここでは 2014 年の会員名簿に記載された会員とカーストの関連を検討する。名簿では宗教やカースト別の分類は行われていないが、会員の姓を分析することにより、宗教やカーストとのつながりを一定程度推測できる。この方法論については、別稿で詳論してあるので、参照されたい (篠田 1996a)。前回の 1991 年名簿分析もこの方法論に準じている。

2014 年の会員名簿には、3,099 会員の姓が記載されている。1991 年名簿分析と同様に、今回も頻度 5 以上の姓集団を分析の対象とする。頻度 5 以上の姓集団の会員数は 2,240 名で会員総数の

表8 会員名簿にみられる頻度5位上の姓リスト(2014年)

頻度	(1)バラモン	(2)クシャト リヤ	(3)バニ ヤー	(4)上位諸 カースト	(5)バー ティー ダール	(6)職人 カースト	(7)イス ラーム教 徒	(8)外部州	(9)その他 ・不明	計
100+			shah		patel					2
50-99			agrawal parikh	desai mehta						4
30-49			gandhi shekhar thakar			panchal prajapati				5
10~29	bhatt dave joshi pandya sharma trivedi vyas 、	chaudhary	chokshi doshi gupta jain kothari modi parekh sanghvi	amin vora		gajjar mistri soni	mansuri			22
5~9	acharya brahmhat jani raval shukla vasa	parmar vaghela	bhansali dalal kapadia lakhani merchant nanavati zaveri	khambhatt maniar oza thakore		suthar	teli bajaj chopra kabra Kapoor khanna mevada	chhajer lalbhai sekhani talsania tibrewal		32
計	13	3	21	8	1	6	2	6	5	65

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

72.3%を占めている。これだけの比率の姓集団が把握できれば、姓と宗教、カーストとの関連の全体的傾向は把握できると考える。

表8にみるように、宗教・カースト集団は9つのグループに分類した。このなかで、州外で一般的な姓集団は「外部州」、他の集団に該当しない場合や出自の不明な姓は「その他・不明」の項目に括った。宗教・カースト集団の分類方法についても、別稿に詳しいので参照されたい(篠田1996a)。

会員名簿にみられる頻度5以上の姓集団は65である。宗教・カースト別では「バニヤー」の姓が21種類で、それに「バラモン」が12種類、「上位諸カースト」が8種類、同じく「職人カースト」が8種類と続いている。ちなみに、1991年名簿における頻度5以上の姓集団80のうち、「バニヤー」の姓は29種類、「バラモン」は17種類、「上位諸カースト」は13種類、「職人カースト」は6種類であり、これらの姓集団数は今回と同様の順位であった。1991年名簿の会員数は4,700名ほどであったので、頻度5以上の姓の種類自体が多かった。

姓の頻度は、5~9, 10~29, 30~49, 50~99, 100以上に5区分した。突出して頻度の高いのは、patelとshahの2姓である。これに続く頻度50~99の4姓は「バニヤー」か「上位諸カースト」、頻度30~49の5姓は「バニヤー」か「職人カースト」に属している。前回の名簿と同様に、「バラモン」は頻度5以上の姓の種類は比較的多いものの、頻度の大きな姓はみられない。

表8の姓リストのなかで、1991年名簿の頻度5以上の姓に含まれていないのは、バラモンの場

表9 会員タイプ別カースト別会員数の分布 (2014年)

(会員数、%)

会員タイプ	宗教・カースト									合計
	バラモン	クシャト トリア	バニヤ ー	上位諸 カースト	パー ティー ダール	職人 カースト	イス ラーム 教徒	外部州	その他	
個人 (%)	20 (10.6)	2 (1.1)	89 (47.3)	16 (8.5)	50 (26.6)	7 (3.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.1)	188 (100.0)
商会 (%)	55 (5.4)	8 (0.8)	479 (46.8)	81 (7.9)	302 (29.5)	67 (6.5)	12 (1.2)	15 (1.5)	5 (0.5)	1,024 (100.0)
有限 (%)	34 (6.5)	3 (0.6)	245 (46.5)	43 (8.2)	155 (29.4)	21 (4.0)	3 (0.6)	10 (1.9)	13 (2.5)	527 (100.0)
株式 (%)	5 (4.9)	8 (5.8)	43 (41.7)	6 (5.8)	33 (32.0)	5 (4.9)	0 (0.0)	5 (4.9)	0 (0.0)	103 (100.0)
大企業 (%)	5 (14.3)	2 (5.7)	15 (42.9)	3 (8.6)	8 (22.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	1 (2.9)	35 (100.0)
協会・商工会 (%)	11 (7.9)	1 (0.7)	51 (36.4)	17 (12.1)	52 (37.1)	7 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	140 (100.0)
パトロン会員 (%)	4 (3.8)	2 (1.9)	50 (47.6)	4 (3.8)	36 (34.3)	4 (3.8)	0 (0.0)	1 (1.0)	4 (3.8)	105 (100.0)
永久会員 (%)	7 (5.9)	0 (0.0)	51 (43.2)	10 (8.5)	46 (39.0)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.5)	118 (100.0)
合計 (%)	141 (6.3)	24 (1.1)	1,023 (45.7)	180 (8.0)	682 (30.4)	112 (5.0)	15 (0.7)	32 (1.4)	31 (1.4)	2,240 (100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

合は、jani, shukla, vasa, ~~brahm~~bhat の 4 姓、クシャトリアでは、vaghela の 1 姓、バニヤーでは、bhansali, lakhani, merchant の 3 姓、イスラーム教徒では teli の 1 姓であった。パーティーダールは前回も今回も patel 姓のみ、今回の「上位諸カースト」の姓はすべて前回の頻度 5 以上の姓リストに含まれていた。外部州の 6 姓は前回の頻度 5 以上の姓リストには含まれていなかった。1990 年代以降、グジャラート州に経営者として入ってきた人々が多く含まれていると理解することができる。

(2) カーストとの相関

以上の姓集団と宗教・カーストとの対応関係を前提として、宗教・カーストと会員タイプ、業種がどのように関連しているのか、また「伝統的」職業が製造業である職人カースト会員の業種分布が現在どのようになっているのかを検討しよう。

1) カーストと会員タイプ

表 9 に、「会員タイプ別カースト別会員数の分布 (2014 年)」を掲げる。ここでは頻度 5 以上の姓集団のみを取り上げるので、分析対象の会員数は 2,240 名である。ここでの最大の宗教・カーストは「バニヤー」であり、47%もの会員比率を占めている。それに次ぐ「パーティーダール」も会員の 30%を占めている。両者を合わせると 76%もの高率となる。グジャラート州では 1980 年代以降の政治運動のなかで、「バラモン」「バニヤー」「パーティーダール」が中心となり「上位カースト連合」が形成された。姓集団としての「上位諸カースト」もこれに含めると、「上位カースト連合」の会員数比率は 90%となる。グジャラート商工会議所は、「上位カースト連合」による、「上

位カースト連合」のための商工会議所と表現してもよいほど、会員構成に占める彼らのプレゼンスは絶大である。「職人カースト」のなかでは、panchal や soni は社会的評価が高いが、他は中位のカーストに位置付けられている。グジャラート州には改姓により「クシャトリヤ」姓を名乗りだした下層のグループが存在するが、ここでの「クシャトリヤ」は、かつての領主層の末裔を含む比較的富裕な集団で構成されているとおもわれる。グジャラート商工会議所に関しては、会員比率が1%と非常に少ない。「イスラーム教徒」の会員比率は0.4%とさらに低い。頻度4以下の姓に「イスラーム教徒」のものがいくつか見られるので、全会員のなかでの比率は若干高まるかもしれない。しかし、絶対的少数であることは確実である。「イスラーム教徒」の経営者は彼ら独自の協会に所属することが多い。グジャラート商工会議所の会員になっているのは、彼らの中のほんの一部に過ぎない。

会員タイプ別会員数の宗教・カースト分布の特徴のひとつは、「バニヤー」がほとんどの会員タイプにおいて、会員数の40%台の高い比率を維持していることである。このように、「バニヤー」は、製造業とサービス業に関わる「組織部門」「非組織部門」双方の経営に深く関わっている。会員数比率が40%に満たないのは、「協会・商工会」のみで、これについては後述する。「パーティーダール」も、ほとんどの会員タイプで20%台後半から30%台後半までの比率であり、「バニヤー」に次ぐ経営者勢力であることを示している。「組織部門」では、「有限会社」と「株式会社」は30%前後の会員比率であるが、「大企業」は23%と低く、ここが「パーティーダール」の課題のひとつを成している。「上位諸カースト」と「バラモン」の会員数は各々100名台とそれほど多くはないが、すべての会員タイプに安定的な比率（すなわち、全会員数比率に近い比率）で分布している。そのなかで、「上位諸カースト」の場合は、「協会・商工会」が12%、「バラモン」の場合は「大企業」が14%と高くあらわれており、ともに「組織部門」に深く浸透していることを示している。「クシャトリヤ」の会員数は非常に少ないのに、ほぼすべての会員タイプに分布している。とくに、「株式会社」と「大企業」の会員比率は6%弱と相対的に大きい。このように、ここでの「クシャトリヤ」の会員数の3分の1は、上層の経営者に属すとみなすことができる。「職人カースト」の場合は、大企業の会員がいないこと、「イスラーム教徒」の場合は、「商会」と「有限会社」の2つに会員分布が限定されていることが特徴となっている。「外部州」の場合は、「個人」会員がいないこと、「株式会社」と「大企業」における会員数比率が相対的に高くあらわれている点に特徴がある。

最後に、「協会・商工会」における宗教・カースト分布は他の会員タイプと異なった面があるので、その特徴に触れておこう。通常、多くの協会・商工会には複数の宗教・カーストの会員が所属している。その運営を円滑に進めるために、ほとんどの協会・商工会のなかで会員数がとりわけ優勢な「バニヤー」と「パーティーダール」が中心となり共同で事務運営を行うことが多い。また、代表者についても、ローテーションのなかに他の上位のカーストが入ることもあるが、基本的に「バニヤー」と「パーティーダール」を交互に選出することが多い。このため、他の会員タイプでは「バニヤー」が「パーティーダール」の会員数をかなり上回っているが、「協会・商工会」にお

グジャラート商工会議所の会員構成と宗教・カースト

表 10 業種別カースト別会員数の分布 (2014 年)

(会員数、%)

業種	宗派・カースト									合計
	バラモン	クシャト トリア	バニヤー	上位諸 カースト	パー ティー ダール	職人 カースト	イス ラーム 教徒	外部州	その他・ 不明	
農業製品・食品加工 (%)	5 (4.1)	2 (1.7)	40 (33.1)	12 (9.9)	50 (41.3)	4 (3.3)	0 (0.0)	7 (5.8)	1 (0.8)	121 (100.0)
協会・商工会 (%)	11 (7.5)	1 (0.7)	55 (37.7)	17 (11.6)	54 (37.0)	7 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	146 (100.0)
窯業・ガラス (%)	1 (6.7)	1 (6.7)	9 (60.0)	0 (0.0)	3 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	15 (100.0)
化学・染料及び中間物 (%)	10 (3.6)	3 (1.1)	136 (49.6)	19 (6.9)	95 (34.7)	4 (1.5)	0 (0.0)	5 (1.8)	2 (0.7)	274 (100.0)
建設・不動産 (%)	4 (3.5)	2 (1.8)	31 (27.2)	3 (2.6)	51 (44.7)	23 (20.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	114 (100.0)
電子機器・電気製品 (%)	5 (8.8)	0 (0.0)	27 (47.4)	5 (8.8)	18 (31.6)	2 (3.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	57 (100.0)
エネルギー・電力 (%)	4 (18.2)	0 (0.0)	7 (31.8)	4 (18.2)	6 (27.3)	1 (4.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	22 (100.0)
宝石・貴金属 (%)	1 (3.0)	0 (0.0)	16 (48.5)	3 (9.1)	7 (21.2)	6 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	33 (100.0)
情報技術・装置 (%)	3 (25.0)	0 (0.0)	6 (50.0)	1 (8.3)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
金属 (%)	2 (2.2)	3 (3.2)	55 (59.1)	8 (8.6)	18 (19.4)	3 (3.2)	0 (0.0)	3 (3.2)	1 (1.1)	93 (100.0)
その他 (%)	26 (5.3)	6 (1.2)	221 (44.7)	36 (7.3)	164 (33.2)	29 (5.9)	2 (0.4)	7 (1.4)	3 (0.6)	494 (100.0)
製薬 (%)	5 (6.1)	0 (0.0)	37 (45.1)	10 (12.2)	25 (30.5)	4 (4.9)	0 (0.0)	1 (1.2)	0 (0.0)	82 (100.0)
専門職・サービス (%)	36 (10.9)	2 (0.6)	178 (53.8)	28 (8.5)	58 (17.5)	13 (3.9)	6 (1.8)	3 (0.9)	7 (2.1)	331 (100.0)
繊維 (%)	2 (1.6)	1 (0.8)	77 (62.1)	5 (4.0)	18 (14.5)	4 (3.2)	0 (0.0)	3 (2.4)	14 (11.3)	124 (100.0)
工学技術・自動車 (%)	15 (7.7)	2 (1.0)	75 (38.3)	18 (9.2)	63 (32.1)	18 (9.2)	2 (1.0)	2 (1.0)	1 (0.5)	196 (100.0)
梱包・塗装 (%)	2 (3.1)	1 (1.6)	26 (40.6)	11 (17.2)	21 (32.8)	2 (3.1)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	64 (100.0)
ゴム・プラスチック (%)	2 (3.2)	0 (0.0)	27 (43.5)	0 (0.0)	29 (46.8)	4 (6.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	62 (100.0)
合計 (%)	134 (6.0)	24 (1.1)	1,023 (45.7)	180 (8.0)	682 (30.4)	124 (5.5)	10 (0.4)	32 (1.4)	31 (1.4)	2,240 (100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

いては、両者の会員数は拮抗している。

2) カーストと業種

表 10 に基づき、「業種別カースト別会員数の分布 (2014 年)」を検討しよう。その際、宗教・カースト別の全体の会員数比率を大きく上回っている業種と下回っている業種を特定して、宗教・カーストと業種の関わりの特徴をまとめる。

「バニヤー」が会員数の 50% 以上を占める業種は 5 種類である。そのうち、「繊維」は会員数の 62% もの高率を占める「バニヤー」経営者の牙城である。製造業、商業双方で他の宗教・カーストをいまだに圧倒している。「窯業・ガラス」と「金属」も「バニヤー」が 60% もの会員比率を示

す業種である。もうひとつ、「バンヤー」が会員比率で優位な業種がある。「情報技術・装置」と「専門職・サービス」である。どちらも、高等な専門教育との結びつきの強い業種である。「バンヤー」の高等教育修了者の層の厚さがこの背景にある。「バンヤー」にも会員比率が相対的に低い業種はあるが、最低でも「建設・不動産」の27%であり、特別不得手な業種は存在しない。どの業種にも満遍なく参入し、経営能力を発揮する底力を有している。

「パーティーダール」もまた、どの業種にも満遍なく参入してはいるが、現時点では「バンヤー」のようなオールラウンドのプレーヤーではない。「パーティーダール」の会員比率が40%台と高いのは、「農業製品・食品加工」と「建設・不動産」である。この2業種は、農耕カースト「パーティーダール」の伝統的職業である農業や土地経営と密接に関連しており、彼らが比較優位を持つ業種である。この2業種は、以前から、「パーティーダール」の強い業種と言われてきた。近代的な業種である「ゴム・プラスチック」は「パーティーダール」と「バンヤー」の2強で会員数の90%を占めている。「パーティーダール」の会員数比率が15%前後と低い業種には、「情報技術・装置」と「専門職・サービス」が含まれている。高等な専門教育修了者の層が比較的薄いこと、これら2業種の主要な会員タイプである「個人」と「商会」会員の層も比較的薄いことがその理由と推測できる。

「上位諸カースト」における会員数の業種間の分布には、比較的大きな偏りがあり、「窯業・ガラス」「ゴム・プラスチック」には会員はいない。他の業種のなかで会員数比率が高いのは、「エネルギー・電力」「製薬」「梱包・塗装」の3業種である。

「バラモン」は会員数が「上位諸カースト」を下回るのに、同表のすべての業種に会員が分布している。この現象自体、後に詳述するように、近年における「バラモン」の製造業、商業への積極的進出のあらわれと捉えることができる。なかでも、会員数比率が高いのは、「エネルギー・電力」と、「情報技術・装置」と「専門職・サービス」である。後者は高等な専門教育と関わり、「バラモン」が優位に立ちやすい分野である。

「職人カースト」会員の業種別の分布には、特徴がある。「職人カースト」のなかには、特定の伝統的職業を継続発展させている姓集団がある。このような業種では、「職人カースト」の会員数比率が高くあらわれている。たとえば、大工業は「建設・不動産」と、金工は「宝石・貴金属」と密接に関わっている。

「クシャトリヤ」は「窯業・ガラス」や「金属」の会員数比率が若干高くあらわれているが、会員数自体が小さ過ぎ、確たることはいえない。「イスラーム教徒」は2業種だけに分布している。このうち、「専門職・サービス」6名中4名は旅行代理業であることが確認できている。「イスラーム教徒」経営者のなかで、実際には多数を占めている繊維、機械・部品関連の経営者は会員とはなっていない。このように、「イスラーム教徒」はグジャラート商工会議所とほぼ関わっていない。

(3) カーストと登録時期

現在の会員に占める宗教・カースト別会員数の分布についてはすでに触れた。ここでは、宗教・

表 11 登録時期別カースト別会員数の分布 (会員数、%)

宗教・カースト	2014 年度名簿			1991 年度名簿
	1949-1991	1992-2014	合計	1949-1991
バラモン	19	115	134	212
(%)	(3.3)	(6.9)	(6.0)	(6.1)
クシャトリヤ	6	18	24	61
(%)	(1.0)	(1.1)	(1.1)	(1.8)
バニヤール	290	733	1,023	1,636
(%)	(50.3)	(44.1)	(45.7)	(47.1)
上位諸カースト	57	123	180	315
(%)	(9.9)	(7.4)	(8.0)	(9.1)
パーティーダール	165	517	682	1,013
(%)	(28.6)	(31.1)	(30.4)	(29.1)
職人カースト	22	102	124	128
(%)	(3.8)	(6.1)	(5.5)	(3.7)
イスラーム教徒	0	10	10	24
(%)	(0.0)	(0.6)	(0.4)	(0.7)
外部州	13	19	32	
(%)	(2.3)	(1.1)	(1.4)	
その他・不明	5	26	31	87
(%)	(0.9)	(1.6)	(1.4)	(2.5)
合計	577	1,663	2,240	3,476
(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

カースト別会員数比率が登録時期別にどのように異なっているのかを、表 11 に基づき、検討しよう。同表には、比較のために、1991 年名簿における宗教・カースト別会員数とその比率も示してある。

1991 年名簿にみられる会員数は 2014 年名簿の会員数を 1,200 名ほど下回っているのに、宗教・カースト別会員数比率に基づき比較をすると、両年度間で会員数比率が増加したのは、「パーティーダール」と「職人カースト」のふたつであり、他の「バラモン」「クシャトリヤ」「バニヤール」「上位諸カースト」「イスラーム教徒」の会員数比率は減少している。この変動のなかで、とくに重要なのは、会員数比率における「パーティーダール」の増加と「バニヤール」の減少である。ともに、1 ポイント強の微増、微減であるが、両集団のサンプル数は十分に大きいので、会員数比率の趨勢をあらわす指標として理解できる。他の宗教・カーストについては、サンプル数はそれほど大きくないので、頻度 5 以上の姓集団が 1～2 組み込まれるか否かで、宗教・カースト別会員数比率が大きく変動することに留意する必要がある。

会員数比率の趨勢は、宗教・カースト別会員の退会率やその登録時期による違いが少ないとすれば、登録時期別の宗教・カースト間の会員数比率の変動に、より明確にあらわれている。たとえば、「パーティーダール」の会員数比率は第 1 期の 28.6% から第 2 期の 31.1% に増加しているのに対して、「バニヤール」は 50.3% から 44.1% へと 6 ポイントも減少している。さきほどの 1991 年名簿と 2014 年名簿の宗教・カースト別会員数比率の検討を補強する結果となっている。

「職人カースト」と「バラモン」も会員数比率を第 2 期に伸ばしている。とくに、「バラモン」は

第1期の3.3%から第2期の6.9%へと、倍以上比率を伸ばしている。しかも、さきほど検討したように、多様な業種に進出しており、製造業と商業が彼らの社会的経済的上昇にとって重要な分野になっている。

ここでの「イスラーム教徒」を構成する頻度5以上の姓集団は1つのみで、彼らの中の4名は旅行代理業であることも分かっている。第2期登録の10名については、「逸れた」ケースであり、今後の趨勢を示唆するような登録パターンではないと考える。「イスラーム教徒」はグジャラート商工会議所のなかでは、ますます限界的な立場になるであろうと推測できる。

(4) 代表者組み合わせ

ここでは、代表者の組み合わせパターンの特徴について検討する。1991年名簿の分析の際には、代表者1名(2名以上の場合は、先に記載された1名)の姓名のみを入力した。会員数が多く、入力に手間取っていたことと、代表者の組み合わせパターンの分析の重要性をそれほど真剣に考えていなかったためである。今回の2014年名簿分析では、前回の分析で果たせなかった課題を果たすために、代表者2名の姓名を入力した。

1) 会員タイプ別姓組み合わせ

まず、代表者の姓の組み合わせが会員タイプ別にどのように分布しているのかを検討する。表12に、「会員タイプ別カースト別代表者姓の組み合わせの分布」を掲げる。表中の同姓とは代表者2名の姓が同じ組み合わせを指す。同姓以外はすべて異姓となるので、異姓の比率は表にはあえて含めていない。ここでの分析対象会員数は、頻度5以上の姓集団の会員数2,240名のうち、2名の代表者名が記載されていた1,500組である。残りの740名の会員については代表者1名のみ記載であった。

最初に、会員タイプ別の同姓の比率を比較しよう。「パトロン会員」と「永久会員」を除外し、「商会」から「協会・商工会」までの同姓の比率をみると、「商会」における同姓の比率が85.1%と最も高く、それに、「有限会社」が75.4%、「株式会社」が65.6%、「大企業」が59.4%、そして「協会・商工会」が27.2%で続いている。会員タイプは、家族や親族で構成されることの多い「非組織部門」の「商会」から、「組織部門」であるが規模の小さな「有限会社」から、株式を有する「株式会社」さらに規模の大きい「大企業」の順で配置されている。代表者が同姓の比率は、この会員タイプの特性にしたがい、順次低まっている。それでも、「大企業」の場合であっても、代表者の同姓比率が50%を超えているところに、インドにおける経営者集団の特徴のひとつがある。同姓の比率が最も低いのは、代表者が複数の宗教・カーストから選出され、そのため異なった姓集団で構成される「協会・商工会」である。

次に、宗教・カースト別の同姓の比率を検討しよう。宗教・カースト別の会員数(すべての会員タイプを含む)に占める同姓の組み合わせの比率にも、比較的大きな開きがある。同姓の組み合わせの比率が最も高いのは「イスラーム教徒」の83.3%、最も低いのは「バラモン」の52.7%である。ここでの宗教・カースト別の同姓比率の分布にも明確な傾向がある。それは、「イ

表 12 会員タイプ別カースト別代表者姓の組み合わせの分布 (会員数、%)

会員タイプ		宗教・カースト									合計
		バラモン	クシャトリア	バニヤール	上位諸カースト	パーティーダール	職人カースト	イスラーム教徒	外部州	その他・不明	
商会	姓 (%)	(81.0)	(75.0)	(84.3)	(83.6)	(89.3)	(78.6)	(100.0)	(75.0)	(75.0)	(85.1)
	合計数	21	4	325	55	205	42	3	12	4	671
有限	姓 (%)	(60.0)	(100.0)	(77.9)	(66.7)	(78.2)	(66.7)	(66.7)	(77.8)	(76.9)	(75.4)
	合計数	30	2	213	39	142	21	3	9	13	472
株式	姓 (%)	(20.0)	(100.0)	(62.5)	(33.3)	(74.2)	(66.7)		(100.0)		(65.6)
	合計数	5	4	40	6	31	3		4		93
大企業	姓 (%)	(20.0)	(0.0)	(78.6)	(100.0)	(62.5)			(0.0)		(59.4)
	合計数	5	2	14	2	8			1		32
協会・商工会	姓 (%)	(0.0)	(0.0)	(29.4)	(6.3)	(38.0)	(28.6)			(0.0)	(27.2)
	合計数	10	1	51	16	50	7			1	136
パトロン会員	姓 (%)	(50.0)	(50.0)	(62.8)	(66.7)	(88.2)	(75.0)		(0.0)	(0.0)	(68.8)
	合計数	2	2	43	3	34	4		1	4	93
永久会員	姓 (%)	(100.0)		(100.0)		(100.0)					(100.0)
	合計数	1		1		1					3
合計	姓 (%)	(52.7)	(66.7)	(75.5)	(65.3)	(79.0)	(70.1)	(83.3)	(74.1)	(59.1)	(74.1)
	合計数	74	15	687	121	471	77	6	27	22	1,500

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

「イスラーム教徒」を例外として、会員数が十分に大きく、すべての会員タイプにおいて多数を占めている「バニヤール」と「パーティーダール」の同姓の組み合わせの比率が70%台後半を示しているのに対して、会員数が比較的少ないなかで「組織部門」や「協会・商工会」にも会員を有する「バラモン」「クシャトリア」「バニヤール」「上位諸カースト」「職人カースト」の同姓の比率は50%～60%台を示していることである。とくに、「バラモン」は異姓比率の高い「協会・商工会」に10名の会員を有しており、これが同姓の比率を引き下げる大きな要因になっている。「イスラーム教徒」を例外にしたのは、会員数は少数であるうえ、会員タイプの広がりが見られず、「商会」と「有限会社」のみに会員が分布しているからである。

宗教・カースト別に「商会」の同姓比率をみると、「バラモン」を含むいずれの宗教・カーストの同姓比率も75%以上の高率を示している。「バニヤール」と「パーティーダール」の2大勢力の同姓比率がとりわけ高率である。商工業の経営層が厚いために、家族、親族あるいは同カースト間で組み合う相手を見つけやすいことが背景にある。同時に、同じカーストとの組み合わせのほうが、異カーストとの組み合わせよりも、共同経営におけるリスクが小さいとの認識があるためだと推測できる。「イスラーム教徒」の商会における同姓比率が100%であること背景には、彼らは孤立しており、同じ宗教の経営者以外と共同経営を行うことが困難な状況がある。

「有限会社」から「株式会社」「大企業」へと規模が拡大するにつれて、同姓比率は逡減する。それでも、「バニヤール」と「パーティーダール」の同姓比率は、「大企業」の場合でも、60%以上を示している。これに対し、「バラモン」「クシャトリア」「上位諸カースト」の場合は、若干の例外はあるが、「株式会社」や「大企業」における同姓比率は、「バニヤール」と「パーティーダール」のそれを大きく下回っている。

表13 会員タイプ別カースト別代表者カーストの組み合わせの分布 (会員数、%)

会員タイプ	同カースト比率	カースト								合計	
		バラモン	クシャトリヤ	バニヤー	上位諸カースト	パーティーダール	職人カースト	イスラーム教徒	外部州		その他・不明
商会	同カースト(%)	(85.7)	(75.0)	(88.3)	(83.6)	(89.3)	(84.6)	(83.3)	(75.0)	(75.0)	(87.5)
	合計数	21	4	325	55	205	39	6	12	4	671
有限	同カースト(%)	(59.4)	(100.0)	(82.6)	(69.2)	(78.2)	(73.7)	(66.7)	(77.8)	(76.9)	(78.0)
	合計数	32	2	213	39	142	19	3	9	13	472
株式	同カースト(%)	(20.0)	(100.0)	(67.5)	(33.3)	(74.2)	(66.7)		(100.0)		(67.7)
	合計数	5	4	40	6	31	3		4		93
大企業	同カースト(%)	(20.0)	(0.0)	(78.6)	(100.0)	(62.5)			(0.0)		(59.4)
	合計数	5	2	14	2	8			1		32
協会・商工会	同カースト(%)	(0.0)	(0.0)	(58.8)	(12.5)	(38.0)	(28.6)			(0.0)	(39.0)
	合計数	10	1	51	16	50	7			1	136
パトロン会員	同カースト(%)	(33.3)	(50.0)	(69.8)	(66.7)	(88.2)	(100.0)		(0.0)	(0.0)	(72.0)
	合計数	3	2	43	3	34	3		1	4	93
永久会員	同カースト(%)	(100.0)		(100.0)		(100.0)					(100.0)
	合計数	1		1		1					3
合計	同カースト(%)	(53.2)	(66.7)	(81.8)	(66.9)	(79.0)	(76.1)	(77.8)	(74.1)	(59.1)	(77.3)
	合計数	77	15	687	121	471	71	9	27	22	1,500

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

そして、「協会・商工会」になると、「バニヤー」と「パーティーダール」の同姓比率も、各々 29.4%、38.0%へと低下する。これに対して、「バラモン」と「クシャトリヤ」の「協会・商工会」での同姓比率は 0%であり、同じ姓集団の経営層の薄さが同姓比率に反映している。「職人カースト」の同姓比率が 28.6%と「バニヤー」の比率に近いのは、「職人カースト」のなかのサブ・カースト（姓集団を構成）が各々専門とする製造業の協会で、いまだに強い影響力を有しているためだと理解できる。

2) 会員タイプ別カースト組み合わせ

さらに、会員タイプ別カースト組み合わせを検討しよう。表 13 に、「会員タイプ別カースト別代表者カーストの組み合わせの分布」を掲げる。代表者 2 名の姓が異なっても、表 8 に示したカーストと姓集団の関係に基づき、同一のカーストに属すると判断できる場合がある。その調整を行い、代表者 2 名のカーストの異同を、同カースト、異カースト、不明（すなわち、代表者の内の 1 名の姓が頻度 5 未満であるために、カーストは判断できないケース）に分類した。不明には同カーストの姓が含まれている可能性があり、その場合には同カースト組み合わせの比率は、より高くなる。宗教・カーストのなかで、不明に同カーストの姓集団が含まれている可能性が高いのは、多様な姓集団を有する「バニヤー」と、宗教の結合が非常に強い「イスラーム教徒」であり、逆に可能性が低いのは姓集団が Patel や Amin などに限定されている「パーティーダール」である。いずれにせよ、不明を同カーストではないとみなしているため、ここでの同カーストの比率は低めに見積もられた比率であることに留意する必要がある。比較のために、宗教・カースト別の同姓比率を表に含めてある。

表から明らかなように、4 つのカーストにおいて、代表者 2 名が同カーストである比率が同姓で

ある比率を上回っている。とくに、「バニヤー」では両者の比率に6ポイントもの開きがある。「バニヤー」は商工業で主導的な役割を担っており、姓集団もきわめて多様である。「職人カースト」も同カーストの比率が同姓の比率を6ポイント上回っている。「職人カースト」のなかで、建築、機械、金属などに共通する技術経営基盤をもつ姓集団がいくつもあるために、経営面でも連携しやすい事情があるものと推測できる。「バラモン」と「上位諸カースト」も、比較的多様な姓集団を有しているために、同カーストの比率が同姓の比率を若干上回っている。これに対して、「クシャトリア」、「パーティーダール」、「イスラーム教徒」の3つの宗教・カーストでは、両者の比率が同一である。このうち、「パーティーダール」は使用姓の種類自体が非常に少ないためである。「イスラーム教徒」の場合、「商会」と「有限会社」の会員数のうち各1組が不明に分類されているために、ここでの同カースト比率は同姓比率と同一にあらわれている。しかし、その2組(YasinとReval)のどちらも「イスラーム教徒」の姓集団の組み合わせであることが会員名簿から確認できているので、実質的には同宗教・カースト比率は100%である。

次に、代表者2名が同カーストである比率が同姓である比率を上回っている宗教・カーストについて、どの会員タイプで両比率にどの程度の開きがあるのか検討してみよう。「商会」では、「バラモン」、「バニヤー」、「職人カースト」で両比率に4～6ポイント、「有限会社」では、「バニヤー」、「上位諸カースト」、「職人カースト」で両比率に3～7ポイントの開きがみられる。このように、「非組織部門」や投資額の比較的小さい経営体である「商会」や「有限会社」では代表者の同姓、同カーストの組み合わせ比率がきわめて大きい。もうひとつ、「協会・商工会」でも「バニヤー」と「上位諸カースト」で代表者の同カースト比率が同姓比率を上回っている。とりわけ、注目すべきは「バニヤー」の事例で、同カースト比率が同姓比率を29.4ポイントも上回っている。この結果、「バニヤー」の「協会・商工会」での代表者の同カースト比率は58.8%となり、「パーティーダール」の同比率38.0%を大きく上回っている。「協会・商工会」の代表者は異なるカーストで組み合わせられることが多いなか、「バニヤー」の同比率の抜きん出た高さには、商工会における彼らの影響力支配力の大きさが如実にあらわれている。

3) 代表者カースト組み合わせ

これまでは代表者の同姓、同宗教・カーストの組み合わせに注目して検討を行ってきたが、ここでは代表者が宗教・カースト間でどのように組み合わせられているのかを、表14「代表者カーストの組み合わせの分布」に基づき検討する。同表には、宗教・カーストごとの他の宗教・カーストとの代表者組み合わせ数とその比率を示してある。ここでは、頻度5以上の姓集団間での代表者組み合わせ数に限定しているため、分析対象組み合わせ数は1,346である。宗教・カースト間の代表者組み合わせ比率の分布には、代表者組み合わせの範囲と深さがあらわれている。これは、商工業経営における宗教・カースト間の親和性と排他性をあらわす指標として理解することもできる。

「バニヤー」はここでの会員数の46%を占める最大集団である。その代表者カースト組み合わせ比率で特筆すべきは、自カースト間での組み合わせが90.2%もの高率を占めていることである。次に比率の大きいのは「パーティーダール」との4.8%であるが、その大半は「協会・商工会」での

表14 代表者カーストの組み合わせの分布

(会員数、%)

代表者1の宗教・カースト	代表者2の宗教・カースト									合計
	バラモン	クシャトリア	バニヤール	上位諸カースト	パーティーダール	職人カースト	イスラーム教徒	外部州	その他・不明	
バラモン	40	0	9	4	7	0	0	0	0	60
(%)	(67.2)	(0.0)	(14.8)	(6.6)	(11.5)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
クシャトリア	0	10	2	0	0	0	0	0	0	12
(%)	(0.0)	(83.3)	(16.7)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
バニヤール	9	1	561	12	30	6	0	1	2	622
(%)	(1.4)	(0.2)	(90.2)	(1.9)	(4.8)	(1.0)	(0.0)	(0.2)	(0.3)	(100.0)
上位諸カースト	3	0	16	81	10	0	0	0	0	110
(%)	(2.7)	(0.0)	(14.5)	(73.6)	(9.1)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
パーティーダール	5	1	36	7	372	2	0	1	0	424
(%)	(1.2)	(0.2)	(8.5)	(1.7)	(87.7)	(0.5)	(0.0)	(0.2)	(0.0)	(100.0)
職人カースト	3	0	1	0	9	57	0	1	0	68
(%)	(4.4)	(0.0)	(1.5)	(0.0)	(13.2)	(83.8)	(0.0)	(1.5)	(0.0)	(100.0)
イスラーム教徒	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7
(%)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
外部州	0	0	3	0	0	0	0	20	0	23
(%)	(0.0)	(0.0)	(13.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(87.0)	(0.0)	(100.0)
その他・不明	2	0	4	0	0	0	0	0	13	19
(%)	(10.5)	(0.0)	(21.1)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(68.4)	(100.0)
合計	63	12	632	104	428	62	7	23	15	1,346
(%)	(4.7)	(0.9)	(47.0)	(7.7)	(31.8)	(4.6)	(0.5)	(1.7)	(1.1)	(100.0)

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

組み合わせであり、事業の共同経営者としての組み合わせは僅少である。「バニヤール」は「イスラーム教徒」を除くすべての宗教・カーストと組み合っているが、そのなかで組み合わせ比率が1%をこえ比較的親和性が高そうなのは、「上位諸カースト」(このなかには「バニヤール」の会員が含まれている可能性も大きい)、「バラモン」、「職人カースト」の3カーストである。

会員数で「バニヤール」に次ぐ「パーティーダール」も、自カースト間での組み合わせ比率が87.7%と高い。次に比率の大きいのは「バニヤール」との8.5%であり、そのほとんどは「協会・商工会」での組み合わせである。さらに、組み合わせ比率が1%をこえるのは、「上位諸カースト」(このなかにも「パーティーダール」の会員が含まれている)と「バラモン」のみである。

「バラモン」の代表者カースト組み合わせの特徴はふたつある。第1は、自カースト間での組み合わせ比率がすべての宗教・カーストのなかでもっとも低いことである。第2は、他カーストと代表者組み合わせの範囲が狭く、「バニヤール」、「パーティーダール」そして「上位諸カースト」の3つのみである。「上位諸カースト」は「バニヤール」、「パーティーダール」、「バラモン」が使用する姓集団より構成されているので、結局、「バラモン」にとって「バニヤール」と「パーティーダール」が親和的なカーストであり、その他のカーストとは疎遠である。

「職人カースト」は他の4カーストと代表者の組み合わせが見られる。自カーストの代表者組み合わせ比率は83.8%で、「バニヤール」、「パーティーダール」に続いている。他のカーストとの組み合わせで興味深いのは、「パーティーダール」との比率(13.2%)が「バニヤール」との比率(1.5%)を大きく上回っていることである。「職人カースト」は代表者の組み合わせに関して、「パーティー

表 15 会員タイプ別宗教・カースト別代表者組み合わせの総括表 (％)

会員タイプ	代表者1の 宗教・カースト	代表者2の宗教・カースト							合計 (%)	組み合 わせ数
		バラモン	クシャ トリア	バニヤ ー	上位諸 カースト	パー ティー ダール	職人 カースト	イス ラーム 教徒		
商会	バラモン	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	20
	クシャトリア	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	3
	バニヤ ー	0.6	0.0	92.3	1.9	4.5	0.6	0.0	100.0	311
	上位諸カースト	0.0	0.0	9.6	88.5	1.9	0.0	0.0	100.0	52
	パー ティー ダール	0.0	0.0	3.6	0.0	94.8	1.0	0.0	100.0	193
	職人カースト	2.6	0.0	0.0	0.0	7.9	86.8	0.0	100.0	38
	イスラーム教徒	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	5
	合計	21	3	302	52	201	37	5	635	
有限会社	バラモン	76.0	0.0	12.0	8.0	4.0	0.0	0.0	100.0	25
	クシャトリア	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	2
	バニヤ ー	2.1	0.0	91.2	1.0	4.7	0.5	0.0	100.0	193
	上位諸カースト	2.8	0.0	16.7	75.0	5.6	0.0	0.0	100.0	36
	パー ティー ダール	1.5	0.0	12.0	3.0	83.5	0.0	0.0	100.0	133
	職人カースト	5.3	0.0	5.3	0.0	15.8	73.7	0.0	100.0	19
	イスラーム教徒	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	2
	合計	27	2	204	35	126	15	2	429	
株式会社	バラモン	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	100.0	4
	クシャトリア	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	4
	バニヤ ー	0.0	0.0	87.1	3.2	0.0	3.2	0.0	100.0	31
	上位諸カースト	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	100.0	4
	パー ティー ダール	0.0	0.0	11.5	0.0	88.5	0.0	0.0	100.0	26
	職人カースト	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	100.0	3
	合計	2	4	32	4	25	3	0	76	
	大企業	バラモン	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	100.0
バニヤ ー		15.4	0.0	84.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	13
上位諸カースト		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	2
パー ティー ダール		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	5
合計		3	0	11	2	7	0	0	23	
協会・商工	バラモン	0.0	0.0	42.9	14.3	42.9	0.0	0.0	100.0	7
	クシャトリア	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1
	バニヤ ー	2.4	0.0	70.7	7.3	14.6	4.9	0.0	100.0	41
	上位諸カースト	15.4	0.0	30.8	15.4	38.5	0.0	0.0	100.0	13
	パー ティー ダール	8.8	2.9	26.5	5.9	55.9	0.0	0.0	100.0	34
	職人カースト	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	100.0	5
	合計	6	1	47	8	36	4	0	102	

(出所) グジャラート商工会議所 2014 年度版会員名簿より筆者作成。

ダール」と親和的であるとみなすことができよう。

「クシャトリア」と「イスラーム教徒」はともにサンプル数が非常に少ない。そのため、「クシャトリア」の場合には、代表者が組み合う他のカースト数が過少にあらわれている可能性はある。これに対して、「イスラーム教徒」の場合は、代表者が他の宗教・カーストと組み合うことは、これまでの検討からもあきらかなように、基本的にないとみることができる。

4) 会員タイプ別代表者カースト組み合わせ

最後に、会員タイプ別に宗教・カースト間の代表者組み合わせがどのように分布しているのかを検討しておきたい。表 15 に「会員タイプ別宗教・カースト別代表者組み合わせの総括表」を掲げ

る。なお、同表からは分析に関わらない「外部州」と「その他・不明」のデータは削除してあるが、会員数の総計にはこれらの会員数も含めてある。

「商会」の代表者組み合わせの特徴として、自宗教・自カーストの代表者組み合わせがきわめて高い比率を示していることが指摘できる。「イスラーム教徒」や会員数の少ない「クシャトリヤ」の自宗教・自カーストの代表者組み合わせ比率は100%である。会員数における2大勢力である「バニヤール」と「パーティーダール」の同比率も90%台前半を示している。さらには、他のカーストと代表者を組み合わせることの多い「バラモン」も、「商会」に関しては、自カーストでの組み合わせ比率が90%の高率を示している。このように、宗教・カーストにかかわらず、家族、親族、同カーストで「商会」の代表者は構成されている。カースト間組み合わせの特徴としては、「職人カースト」と「パーティーダール」のつながりと、「上位諸カースト」と「バニヤール」のつながりの強いことが指摘できる。

「有限会社」の自宗教・自カーストでの代表者組み合わせの比率は、「商会」よりは若干下がるものの、かなり高い比率を示している。ここでも、「イスラーム教徒」や「クシャトリヤ」の自宗教・自カーストの代表者組み合わせ比率は100%である。「バニヤール」はその「商会」の比率とほぼ変わらない90%強の比率を示している。「パーティーダール」は80%台、他は70%台である。ここでのカースト間組み合わせでも、「職人カースト」と「パーティーダール」のつながり、「上位諸カースト」と「バニヤール」のつながり、さらには「パーティーダール」の代表者の12%が「バニヤール」と組んでいることを確認できる。

「株式会社」になると、会員数が小規模なカーストの代表者が自カーストで構成される比率が大きく低下する。「バラモン」は25%、「上位諸カースト」は50%、「職人カースト」は67%となっている。これに対して、2大勢力の自カースト比率は高水準で、「バニヤール」と「パーティーダール」はともに80%台後半を示している。カースト間の代表者組み合わせの範囲を比較すると、もっとも狭いのは「クシャトリヤ」で、その次が「パーティーダール」と「職人カースト」である。

「大企業」の自カーストでの代表者組み合わせの比率は、「バラモン」を除き、高い比率を示している。「バラモン」は「パーティーダール」との代表者組み合わせの比率が高くあらわれている。ただし、ここでの会員数は全体で23名と非常に少ない。この点に留意したうえで、ここでのカースト間の代表者組み合わせの分布を理解する必要がある。

「協会・商工会」での代表者組み合わせの特徴は、「バニヤール」と「パーティーダール」を中心に代表者の組み合わせがみられる点にある。ただし、両者を比較すると、「バニヤール」のほうが代表者数と自カーストでの代表者組み合わせの比率の双方で「パーティーダール」を上回っており、「バニヤール」がもっともパワフルな経営者集団を成しているとみることができる。両カーストの「協会・商工会」での連携は深く、双方の代表者にとってお互いがもっとも一般的な組み合わせ相手となっている。同時に、会員数が比較的少ないカーストの代表者の組み合わせ相手も「バニヤール」や「パーティーダール」であることが多い。とりわけ、「バニヤール」、「パーティーダール」、「バラモン」、「上位諸カースト」の間には、上位カースト連合と呼べるまとまりが存在している。これ

は、「協会・商工会」に限ったことではなく、会員タイプ別の代表者のさまざまな連携のなかの主要な組み合わせとして、グジャラート商工会議所の特色のひとつとなっている。

おわりに

前稿での1991年名簿分析と今回の2014年名簿分析により、20世紀半ばから現在までのグジャラート商工会議所の会員構成の変化を跡付けることができた。前稿では、グジャラート商工会議所の会員数に占めるバニヤーの相対的な比重の低下とパーティーダールの躍進が確認できた。また、バラモンが商工業に積極的に関わるようになったことについても実証することができた。

今回の2014年度版名簿の分析により、パーティーダールのさらなる躍進が確認できた。とくに、「協会・商工会議所」の代表者の組み合わせにおいて、パーティーダールの比率が増大していることと、バニヤーと組み合わせられる事例が多いことはパーティーダールがグジャラートの商工業においてバニヤーの対抗勢力として業界団体のなかでも認知されていることを示している。それと同時に、今回の名簿分析により、バニヤーがアーメダバード県の商工業経営者を中心に構成されるグジャラート商工会議所のなかではいまだに非常に大きな影響力をもっていることが確認できた。

さらに今回は、代表者カーストの組み合わせの検討から、会員の主体をなす中小規模の経営体において共同経営者の組み合わせはどの範囲の宗教・カーストに限定されるのかを検討した。その結果、宗教・カーストを問わず、商会や有限会社などの小規模な経営体においては、自カースト間での組み合わせが圧倒的な比率を占めていること、さらに株式会社や大企業においても、「バラモン」を除き、自カースト間の組み合わせが比較的高いことが確認できた。家族、親族、同カースト間での共同経営者の比率が、非組織部門と組織部門ともに現在でもこれほど高いのには、いくつかの要因がある。家族、親族、カーストの結合原理は、経営上の結合力を高め、パートナーシップにともなうさまざまなリスクを一定程度軽減するものと推測できる。また、同カーストであれば、伝統的職業や技能の共有、同カーストがすでに開拓している商工業上の生産、流通のネットワークへのアクセスも比較的容易に行える可能性がある。

もちろん、宗教・カースト間での共同経営もみられるが、その場合であっても、商工業経営における宗教・カースト間の親和性と排他性がみられ、グジャラート商工会議所の会員の間では、上位カースト連合と呼べるまとまりが存在している。

最後に、これからの課題を記しておきたい。この名簿には、アーメダバード県以外の会員数が少ないほか、小規模、零細規模の経営者、また下層の社会集団である「指定カースト」「指定部族」「その他後進諸階級」(注8)の経営者はほとんど含まれていない。グジャラート州における経営発展の全体像を捉えるために、これらの課題に順次取り組んでゆきたい。

注

- 1) この名簿には、個別会員の(1)通し番号(2)登録番号(3)事業体名(4)住所(5)電話番号(6)事業の分類(7)代表者名、が記載されていた。商工会議所創設時からの登録順に与えられる登録番号は個別会員のIDであり、退会してもその番号が他者に与えられることはない。登録番号に基づき、諸種の時系列分析が可能となるので、この登録番号の掲載は、会員名簿の資料的価値を非常に高めている。
- 2) たとえば、インド商工会議所連盟(Federation of Indian Chamber of Commerce and Industry:FICCI)やインド商工会議所協会(Associated Chambers of Commerce and Industry of India:ASSOCHAM)などである。
- 3) CIIのSalkat Chowdhury氏からの聞き取り(2015年8月20日)。
- 4) 同上。
- 5) FICCIのParam Shah氏からの聞き取り(2015年8月18日)。
- 6) 同上。
- 7) DICCIのDinesh Rajvanshi氏からの聞き取り(2015年8月15日)。
- 8) 「指定カースト」(Scheduled Castes:SC)、「指定部族」(Scheduled Tribes:ST)、「その他後進諸階級」(Other Backward Classes:OBC)は、留保制度(議員、高等教育、公務職)の対象とされている。しかし、留保制度の活用だけでは不十分であり、彼らの社会経済的発展にとって、商工業への参入が重要になっている。

参考文献

- 篠田隆(1996a)「インド・グジャラート州の経営者とカースト(I)グジャラート商工会議所名簿分析」『大東文化大学紀要(社会科学)』第34号、大東文化大学、1996年3月、47-79頁。
- 篠田隆(1996b)「インド・グジャラート州の経営者とカースト(II):南グジャラート商工会議所名簿分析」『東洋研究』第118号、大東文化大学東洋研究所、1996年1月、69-86頁。
- 篠田隆(1995a)「インド・グジャラートのカーストと職業構成:1931年国勢調査の分析」『大東文化大学紀要(社会科学)』第33号、大東文化大学、1995年3月、81-105頁。
- 篠田隆(1995b)「インド・グジャラート州の小規模工業と経営者」『東洋研究』第115号、大東文化大学東洋研究所、1995年1月、55-76頁。
- 篠田隆(1994)「インド・グジャラートの宗派・カースト構成:1931年国勢調査の分析」『大東文化大学紀要(社会科学)』第32号、大東文化大学、1994年3月、201-232頁。
- Shinoda,Takashi,(2000)“Institutional Change and Entrepreneurial Development: SSI Sector”, *Economic and Political Weekly* 35(35 & 36), Aug 26-Sep 2, 2000, pp.3205-3216.
- Gujarat Chamber of Commerce & Industry (2015) *Make in India, Changing Scenario of India*, Special Bulletin, February 2015.
- Gujarat Chamber of Commerce & Industry (2014) *Members' Directory-2014*, Ahmedabad.